

令和３年度 第３回広島市感染症対策協議会

- 【日 時】 令和３年７月１９日（月）１９：００～２０：００
【場 所】 広島市役所 １４階第７会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、
佐藤 貴、堂面 政俊、増田 裕久、長岡 義晴、岡野 里香、南 心司

１ 感染症に関する最近の情報

（１）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料１ P1～26）

新規陽性者数が高い水準にあり、増加傾向が見られること等から、７月１２日より、東京都に緊急事態宣言が発出された。また、沖縄県についても、新規陽性者数が依然として高い水準にあり、医療提供体制のひっ迫もみられること等から、緊急事態宣言の実施期間が延長された。

本市においては、６月３０日以降、１０万人当たりの１週間新規陽性者数は、広島県警戒基準値（４．０人）を下回っている。

広島県は、全県で安定的に警戒基準値を下回っていることから、「新型コロナウイルス感染拡大防止集中対策」を当初の予定通り７月１１日に終了し、施設の利用制限の要請は解除された。

本市においては、引き続き、市民に対して感染予防等の啓発を行うとともに、広島県等と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

- ・ 引き続き、患者の発生動向に留意するとともに、感染拡大防止に向けた対策を講じてほしい

（２）新型コロナウイルスワクチン接種について（資料１ P27～33）

６月３０日、本市は１２歳から６４歳までの市民への新型コロナウイルスワクチン接種について発表を行った。

国が示す基礎疾患のある者及び高齢者施設及び障害者施設等従事者の他、福祉施設の入所者及び従事者、介護サービス等従事者、障害者、学校等の教職員及び市中心部の酒類を提供する飲食店従事者を本市独自の優先接種対象者とした。

接種券は、７月１４日までに対象者に届くよう順次送付し、優先接種対象者は７月３０日までの優先接種期間中に予約し接種を行い、その他の者は７月３１日以降に予約し接種を行う。

また、就労者や学生が多い１２歳から６４歳までの市民への接種を一層加速させるため、交通結節点等における新たな集団接種会場の設置及び夕方夜間における接種機会の拡大を図った。

（委員意見）

- ・ ワクチン供給状況を含めた適切な情報提供を行い、接種勧奨並びに接種の促進に努めてほしい

(3) 令和2年度における本市の予防接種実施状況について（資料1 P34～36）

令和2年度における本市の予防接種実施状況を取りまとめた。

麻しん・風しんワクチンの接種率は、1期が96.9%、2期が95.3%と、いずれも国の指針で示されている接種率目標（95%）を昨年度に続き上回った。

子宮頸がん予防ワクチンについては、例年に比べ接種人数が増加している。これは、昨年国から、接種対象者及びその保護者が子宮頸がん予防ワクチンの接種に係る情報に接する機会を確保し、接種について検討・判断できるように情報提供するよう示されたことを受け、本市において接種対象者の保護者宛に情報提供を行ったためと考えられる。

本市としては、今後も様々な機会を捉えて、引き続き予防接種に関する制度の周知及び接種勧奨に努めていく。

（委員意見）

- ・ 引き続き、制度の周知と接種勧奨に努めてほしい

2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和 3 年 6 月分	令和 3 年 7 月分
		報告日 6/7～7/4	報告日 7/5～7/13 現在
2類	結核	6 人 (結核 5 人、潜在性結核 1 人)	
3類	腸管出血性大腸菌	6 人 (6/9、6/15、6/18 (2 人)、 6/21、6/23)	
4類	E 型肝炎	1 人 (6/29)	
	つつが虫病		1 人 (7/13)
	日本紅斑熱	1 人 (6/10)	1 人 (7/9)
	レジオネラ症	6 人 (6/18、6/20、6/25 (2 人)、 6/29、6/30)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 人 (6/18、6/28、7/2 (2 人))	1 人 (7/8)
	梅毒	4 人 (6/7、6/12、6/21、6/30)	1 人 (7/8)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5 人 (6/9、6/14、6/16、6/21、 6/28)	2 人 (7/9、7/12)
	百日咳	1 人 (6/11)	
新型 インフル	新型コロナウイルス感染症	3 5 1 人	4 3 人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和 3 年 9 月 2 2 日 (水) 14 階第 7 会議室

【資料】

資料 1 : 最近の感染症情報

資料 2 : 6 月の感染症の概要

資料 3 : 定点把握五類感染症 (月報対象) の長期的変動

1 患者情報

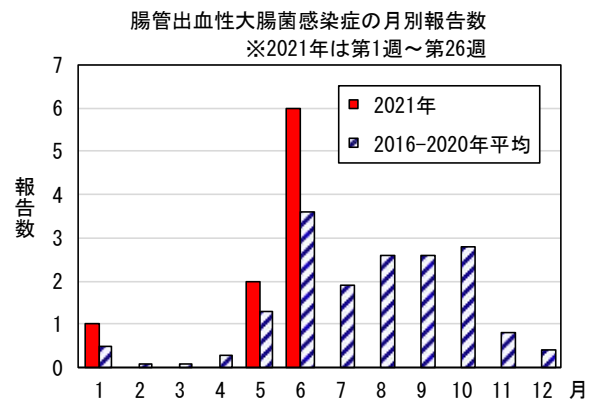
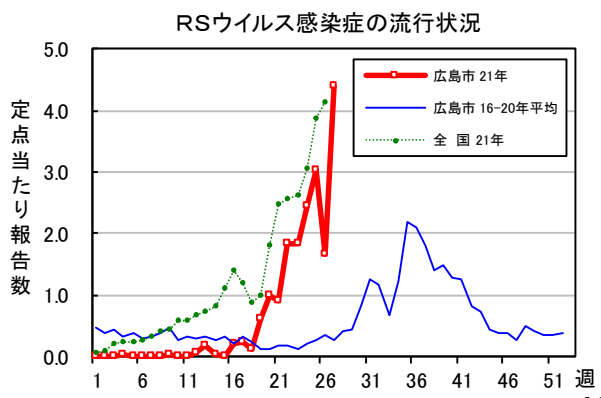
(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は699人で、前月比0.77とやや減少した。

R Sウイルス感染症は大きく増加、咽頭結膜熱はやや増加、突発性発しんはほぼ横ばい、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少、感染性胃腸炎は大きく減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症は減少が続いており、6月30日に10万人当たりの1週間新規感染者数が3.2人と広島県の警戒基準値（4.0人）を下回った。広島県全体でも安定的に警戒基準値を下回っていることから、7月11日をもって感染拡大防止集中対策は終了した。しかしながら、全国では首都圏を中心に新規感染者数が増加に転じた地域があり、一部で緊急事態措置やまん延防止等重点措置が適用されている。今後、連休等による人出の増加やデルタ株への置き換わりなどにより、本市でも感染の再拡大が懸念される。引き続き、基本的感染防止対策を徹底することが重要である。
- 5月から急増したR Sウイルス感染症は、第27週に定点当たり4.38人となり、発生動向調査が始まった2003年以降で最も高い値となった。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は、細気管支炎や肺炎など重篤な症状を引き起こすことがあるため、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避けるなど注意が必要である。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、6件の報告があった。腸管出血性大腸菌は感染力が強く、汚染された食品を食べたり、汚染された手指を通して少ない菌量でも感染する。感染予防には、肉等の食品の十分な加熱、二次汚染の防止、食材・調理器具の洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底することが大切である。



(3) 6月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
 - 2類感染症：結核 6件（患者：5件、潜在性結核：1件）
 - 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 6件
 - 4類感染症：E型肝炎 1件 日本紅斑熱 1件
レジオネラ症 6件
 - 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件
梅毒 4件
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 5件
百日咳 1件
- 新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 351件

(4) 今後の流行予測

R Sウイルス感染症・・・【流行中】

新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

なし

5類感染症定点情報
(令和3年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第26週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		—	—		10	流行性耳下腺炎		17	0.71	
2	咽頭結膜熱		52	2.17		11	RSウイルス感染症		216	9.00	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		29	1.21		12	急性出血性結膜炎		—	—	
4	感染性胃腸炎		305	12.70		13	流行性角結膜炎		5	0.63	
5	水痘		10	0.41		14	細菌性髄膜炎		—	—	
6	手足口病		4	0.16		15	無菌性髄膜炎		—	—	
7	伝染性紅斑		2	0.08		16	マイコプラズマ肺炎		—	—	
8	突発性発しん		36	1.50		17	クラミジア肺炎		—	—	
9	ヘルパンギーナ		9	0.38		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		46	5.11
2	性器ヘルペスウイルス感染症		10	1.11
3	尖圭コンジローマ		6	0.67
4	淋菌感染症		18	2.00
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		12	1.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和3年6月分)

第23週～第26週(6月7日～7月4日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	6	53	1,347	7,750
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	-	4
	17 腸管出血性大腸菌感染症	6	9	403	937
	18 腸チフス	-	-	-	-
	19 パラチフス	-	-	-	-
四類	20 E型肝炎	1	5	29	264
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	2	37
	23 エキノコックス症	-	-	1	15
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	4
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	1	3
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	1	1
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	24	64
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	1	11	119
	41 デング熱	-	-	-	-
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	2	75	164
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	1	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	1	2
	55 マラリア	-	-	-	5
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	3	8
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	6	21	206	723
	62 レプトスピラ症	-	-	-	2
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	3	50	269
	65 ウイルス性肝炎	-	3	12	96
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	6	175	896
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	2	9
	68 急性脳炎	-	1	27	165
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	3
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	13	83
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	47	317
	72 後天性免疫不全症候群	-	2	90	504
	73 ジアルジア症	-	-	2	19
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	18	113
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	1
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	3	104	724
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	19	131
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
	79 梅毒	4	30	640	3,298
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	12	71
	81 破傷風	-	-	10	44
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5	11	16	63
	84 百日咳	1	1	72	322
	85 風しん	-	-	-	7
	86 麻しん	-	-	-	2
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	1
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	351	7,708	44,254	803,652

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。